

# 防災

9月1日は防災の日。8月30日～9月5日は防災週間。

## 防災訓練を実施します

9月6日 7時～8時30分

「午前7時ごろ、市内で震度6弱の強い地震が発生。電気や水道などのライフライン施設や、道路の一部が亀裂・破損、建物が倒壊。また、土砂災害などで孤立した地区にけが人が発生した」という想定で実施します。自治会長や自主防災組織の会長の指示に従い、訓練への参加や協力をお願いします。

■訓練内容 ①災害時の情報収集・伝達（市内全域）②高齢者などの安否確認・支援活動の検証（モデル地区）③防災ヘリコプターによる孤立地区からの搬送



9月9日は救急の日。9月5日～13日は救急医療週間。

救急医療週間の期間中、市民の皆さんに救急医療や救急業務に正しい理解と認識をしていただくため、下記行事を実施します。いざというときに備え、ふるってご参加ください。

# 救命

9/5 講義  
14時～15時 整形外科の救急疾患

■会場 健康福祉の里 研修ホール  
■演題・講師 「わかりやすい骨折のおはなし」  
県立遠野病院 整形外科長 菅原卓 医師

9/6 心肺蘇生法コンテスト  
10時～12時

■会場 総合福祉センター 和室  
■内容 応急措置の重要性と心肺蘇生法を再確認した後、1チーム3人で心肺蘇生法の正確性、AEDの適切な取り扱い方を競う。参加者全員に記念品贈呈。

9/8 講演&実技  
16時～17時 乳幼児の心肺蘇生法

■会場 健康福祉の里 健診室  
■演題・講師 「乳幼児の心肺蘇生法」  
遠野消防署 救急隊

9/13 上級救命講習(定員15人)  
9時～17時

■会場 健康福祉の里 健診室  
■内容 心肺蘇生法、止血法、異物除去法、搬送法、AEDの取り扱い、応急処置全般などを講習。受講者には修了証を交付します。

問い合わせ 遠野消防署(☎4311)

取材を終えて  
実際の災害時、「自助・共助・公助」の役割の割合は平時と逆転し、「7対2対1」になるといわれている。それだけに、住民一人一人の防災への意識と行動力が必要とされている。災害は時と場所を選ばず、突然に襲ってくるもの。平時のような、瞬時的的確な判断は難しくなる。各地で起きた被害を「対岸の火事」にせず、明日災害が起きるかもしれないという心構えで、日ごろからの備えと繰り返し訓練が必要だ。家族や子ども会などで、海や山に宿泊に出掛けることが多い夏の季節。災害時を想定して、電気や水道が無い場所での生活を体験してみるのもいい。職場などでも、災害への備えを再確認してみよう。大切な命や財産を守るために。

特集 明日への備え 完

【参考文献】平成20年岩手・宮城内陸地震 震災誌（奥州市）、これからの防災・減災がわかる本（岩波ジュニア新書）

# POINT 3 公助

被害の軽減や、早期の復旧を目指す行政などの公的機関の取り組み。実際の大規模災害時、公的援助はどのように働くのか。

## 災害直後の公助の限界

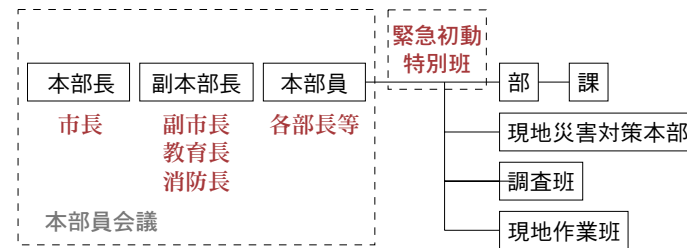
公助とは市を始め、警察・消防・県や国などの行政機関、ライフライン各社を始めとする公共企業などが行う応急対策活動のこと。

消防・防災に関する計画の企画・運用から、火災や災害、救急救助活動への出動や、予防活動を担う市消防本部・遠野消防署は、消防組織法第9条で定められた市の消防機関。現在53人の職員が交代で勤務し、24時間体制で市民の安心・安全の生活を守っている。いざ出動命令が下されば迅速に現場に駆け付け、救命や消火活動などに当たる。

普段は本業を持ちながらも、火災や災害が発生したときに出動するのは、地域に根差した消防団員。892人の団員が日ごろから消防・防災に関する訓練を重ね、火災や災害など、いざというときに備えている。婦人消防協力隊員427人も、女性ならではの視点や特性を生かし、

救護活動や後方支援活動に当たる。しかし、大地震のように同時刻に広範囲に被害がわたるような災害時には、通常の体制とは異なる。大規模な災害が発生した場合や、発生が

## 市災害対策本部組織図



市役所の会議室に設置された市災害対策本部（昨年の防災訓練）

予測される場合には、市長を本部長とする市災害対策本部が設置され、遠野市地域防災計画に基づく役割分担のもと、市の職員が参集し情報の収集や災害復旧に当たる。災害時、通報のたびに出動するのはなく、まずは全体的な被害の状況を確認し、優先度を決めた上で対処に当たる。何より人命が優先。生存救出は被災後72時間が限度ともいわれている。つまり3日間は人命救助が優先され、避難所などへの物資輸送などの救援活動は遅れる。さらに、災害により道路が寸断されている場合には、現場までたどり着けず、救助や復旧が遅れることもある。被害が大きければ大きいほど、公的援助の手が細部まで行き届くまでに時間が掛かるのが現実だ。

## Interview

### 市民一人一人が地域の防災を支える担い手です

大規模災害の被災直後は、より迅速で的確な救助活動が求められますが、状況により思うようには進まないことも考えられます。それ故、市民の皆さんの「自助・共助」の取り組みが欠かせません。

地域の防災を支えるのは防災関係者だけ

でなく、皆さん一人一人の力。これらが相互に連携することで、地域の総合的な防災力につながります。また、防災への意識や行動は、地震や火災のみならず、防犯や子育てにも強い地域づくりにつながります。ぜひ、皆さんで積極的取り組みましょう。



遠野市消防本部 奥寺啓蔵 消防長